



図 21.67 黄色肉芽腫 (xanthogranuloma)



図 21.69 多中心性細網組織球症 (multicentric reticulohistiocytosis)
黄色調の硬い結節，丘疹が手背，指背に多発。

生下時～生後数か月以内に単発ないし多発し，通常は5～6歳までに自然退縮する。成人でも同様の皮疹を生じることがある。血中脂質は正常。Langerhans 細胞組織球症 (22章 p.480 参照) で類似した皮疹をきたすことがあり，鑑別を要する。病理組織学的には，組織球と黄色腫細胞，Touton 型巨細胞からなる反応性肉芽腫である (図 21.68)。神経線維腫症 1 型 (20章 p.391) 合併例では白血病の発症に注意する。

2. 多中心性細網組織球症 multicentric reticulohistiocytosis

主に指背，爪囲，手背，肘部に生じる褐色から黄色調の硬い丘疹や結節 (図 21.69)。ときに融合して局面を形成する。対称性，破壊性の関節炎も伴う。活性化された単球あるいはマクロファージ由来の組織球が，反応性に増殖するのが原因と考えられる。病理組織学的に，すりガラス状の好酸性細胞質を有した，組織球様細胞の浸潤を認める。

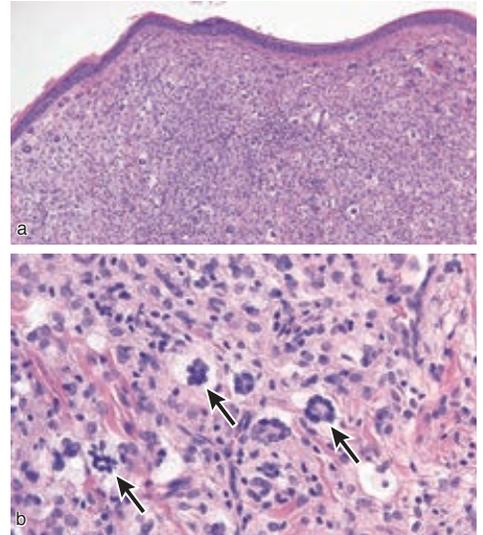


図 21.68 黄色肉芽腫の病理組織像
a：著明な腫瘍細胞の増生。b：脂肪を貪食した Touton 型巨細胞 (矢印)。

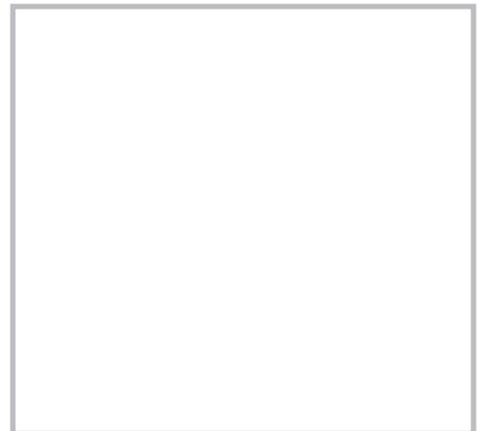


図 21.70 良性頭部組織球症 (benign cephalic histiocytosis)